

大学生のオンライン留学への期待と参加理由および学修成果に関する調査

Students' Expectations, Reasons to Participate, and Outcomes of Online Study Abroads

岩城 奈巳ⁱ・巽 洋子ⁱ

要 旨

新型コロナウイルスの感染拡大により海外渡航が困難な状況の中、学びの機会の逸失を避けるため、国内外の各大学ではオンラインを活用した授業の提供、いわゆる「オンラン留学」を通しての教育に力を入れ取り組んでいる。オンライン留学では日本に留まりながらも海外の大学の講義を現地の学生や他の留学生とともに受講し、ディスカッションへの参加等を通して学習事項への理解を深めることができ、渡航する留学と同様の課題も課せられる。本稿では2021年度の夏休みで開催したオンライン短期留学の参加者22名を対象にアンケートを実施した結果を報告する。まず、オンライン留学に期待していること、参加する理由、得たいことを調査し、2019年度の渡航を伴う短期留学に参加した学生と回答結果を比較した。渡航を伴う留学では注目されていなかった語学力向上に関する項目がオンライン留学では上位を占める結果となった。続いて、オンライン留学で学んだこと、得たこと、学生からの率直な感想も含めた教育効果について、学生の記述を交えながら紹介する。オンライン留学での教育内容を疑問視する声もある一方で、参加学生の全員がオンライン留学プログラムを肯定的に受け止めており、学習成果も確認できたため、渡航のできない状況下での有効な学びの手段であると結論づけることができた。

キーワード

オンライン留学 短期留学 COVID-19 学生派遣

目 次

1. はじめに
2. アンケート調査
 - 2.1 調査方法および対象
 - 2.2 プログラム開始前アンケート結果
 - 2.3 渡航留学とオンライン留学の比較分析
 - 2.4 プログラム修了後アンケート結果および考察
3. まとめ

1. はじめに

世界各国に未曾有の被害をもたらした新型コロナウイルスの流行から2年が経過したが事態の収束は未だ見えず、依然として多くの大学では、学生の海外派遣について一部の条件を満たした学生を除いて中止もしくは次年度への延期等の措置をとっている¹。特に夏休み、春休みなど長期休暇に実施する短期留学は入国および帰国後の隔離措置やワクチン接種などの条件も加わりほとんどのプログラムは実施ができなまま2年が経過しようとしている。こうした渡航できない現状下でも学びの機会を維持するため、各国の大学ではオンラインを活用した授業が急ピッチで進められてきた。ICT教育の環境整備が新型コロナウイルス感染拡大前から整っていた欧米やオーストラリアなどでは、2021年3月にはオンライン留学の運用を開始し、瞬く間にオンライン留学が渡航留学の代替案として提供されるようになった。新型コロナウイルス感染拡大直後に文部科学省が実施した意識調査では、高校生の62.2%、大学生では69.9%がオンライン語学留学に興味

ⁱ 名古屋大学グローバル・エンゲージメントセンター 旧国際機構 国際教育交流センター

¹ 2021年7月に文部科学省は危険度感染症レベル2以上の国に9ヶ月以上の留学に限り渡航許可を出した。<https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1405561_00001.htm>

があると回答しており（文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」海外留学に関する意識調査）、さらに5割以上の学生はオンラインでのインターンシップやボランティア、学位留学などに興味を示したとしている。しかし、オンラインによる学習の場の提供が進むにつれてオンライン学習に関する評価が分かれ始め、学びの限界、実際に渡航した状況とは得られるものが異なるなど、内容や質を疑問視する声もあがっている。2021年度に著者らが実施した留学とオンライン留学、両方を体験した学生へのアンケート調査でも（岩城・巽, 2020）、「コロナで緊急帰国後、実際にオンライン授業を受けていたが、実際に感じる雰囲気や授業以外でのコミュニケーションは違うものだと感じた」、「オンラインによる講義で英語に触れることはできるが、実際に海外に滞在して現地の文化に触れることとは別物」、「オンライン講義を受けてみたが、やはり渡航した留学で培うような対人コミュニケーションや自分の目で見て肌で感じながら学習するのは違った」などと学生は答えている。また、特に学費が高額な欧米諸国の学生からはオンライン授業は授業料に見合っていないとの声が上がリ、学費免除などを訴える学生も出た（Hess, 2020）。しかし、大学における教育の国際化、世界を牽引する人材の育成を進めていくためには、渡航できない現状を理由に国際交流を含む教育を止めてしまうことはできない。オンライン授業に賛否はあるが、大学としてオンラインで展開される研修の質・内容を吟味した上で学生に学びの場を提供し、渡航する留学の代替として上手く活用していくことが必要である。また、短期留学をお試し留学として位置付け、長期留学への導線と考える大学が多い中（新居・岡田, 2017；仁科・表谷・森下, 2017）、学生を短期で渡航させられないことは今後の長期留学派遣人数の伸び率にも関わってくる問題となることも懸念される。オンライン学習を国境が開いた後すぐに行動できるようにするための準備と位置付け、新しい学習方法の一つとして根付かせ、今まで渡航を躊躇していた学生には手軽に参加できるものとして紹介するなど上手く活用することも必要である。オンライン留学先で異文化や人的交流への関心が喚起され、将来的には留学数増加に繋がることも期待できるであろう。また、オンライン

留学は新型コロナウイルスのパンデミック収束後も国内での語学力維持などの手段としても活用できる可能性を持っている。本学ではこれら総合的な効果をオンライン留学に期待し、物理的に学生の渡航・移動が制限される中でも可能な範囲で積極的に推進していくことを目標に、オンライン留学を推奨するi留学²という新しい学びの形を開始した。本学の海外大学協定校が主催するオンライン形式のサマースクール、ウインタースクール、語学講座から専門知識を深めるものまで幅広い講義を揃えることで、渡航が出来ない状況下でも多様な知識を習得し、また国際交流経験を積むことで、学生の学びと成長を支援することを目的としている。本稿ではこのi留学に参加した22名の学生にアンケート調査を実施し、オンライン留学について学生がどのように考えているのか、またオンライン留学の成果と教育効果について考察した。

2. アンケート調査

2.1 調査方法および対象

本調査では、i留学に参加する22名の学生を対象として、オンライン留学プログラムの開始前および修了後にアンケートを実施した。オンライン留学開始前のアンケートでは、33項目から構成された留学に期待すること、留学を通して得たいこと、留学を決定した理由について質問し、回答方法は5件法（5. とてもそう思う, 4. ややそう思う, 3. どちらでもない, 2. あまり思わない, 1. 全く思わない）を採用した。さらに同項目の中からオンライン留学への参加動機として最も適するものを1つ選択させた。オンライン留学後のアンケートでは、1) 応募のきっかけ, 2) 研修前に準備したこと, 3) 参加したアクティビティや学生交流の内容, 4) 履修環境（オンライン環境, 時差と健康管理, 準備して良かったもの）, 5) 研修を終えて感じること, の5項目について質問し、回答方法はすべて自由記述とした。

表1が当調査の対象としたオンライン留学先、研修内容、参加人数、学年である。学年の内訳としては、オーストラリア研修では学部1年生が9名、2年生3名、3年生3名、大学院2年生2名、カナダ研修では学

² i留学のiは international, intercultural, interaction, integration, imagination, invention など国際交流を通じて得られる i から始まる単語を指し、そこに自分の "I" をかけている。http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/abroad/program/short-etc.html

部3年生，韓国は4名とも学部4年生であった。これらのプログラムにはコロナ禍以前にも学生の派遣実績があり，教育の内容とその質は大学が保証をしているものである。また，オーストラリアの研修は教養教育院にて全学教養科目として開講し，単位を付与した。

表1 i 留学の概要

開催国	研修内容	期間	人数
オーストラリア	Intermediate コース 日常会話の表現方法, 異文化理解 Advanced コース 問題解決演習, 多文化 社会の持続可能性	3週間	17名
カナダ	科学技術分野の英語学 習, ラボ・レポート作成	4週間	1名
韓国	韓国語研修, パーチャル 文化活動	3週間	4名

2.2 プログラム開始前アンケート結果

オンライン留学を通して得たいこと，期待することに関する33項目がどのような共通の特性から影響を受けているのかを調べるため，主因子法による因子分析を行った。固有値の変化は13.33, 3.41, 2.57, 2.00, 1.66…というものであり，3因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度，3因子を仮定して主因子法・Varimax回転による因子分析を行った。その結果，十分な因子負荷量を示さなかった4項目を分析から除外し，再度因子分析を行った。Varimax回転後の

最終的な因子パターンと因子間相関を表2に示す。なお，回転前の3因子で29項目の全分散を説明する割合は58.51であった。

第1因子は13項目で構成されており，「就職やキャリア形成に役立てたい」，「就職に役立つスキルを身につけたい」，「就職活動の自己PRにしたい」，「自立したい」，「自分の力を試してみたい」など，就職と自己成長に意識が向かう内容の項目が高い負荷量をしめしていた。そこで，「就職と成長」因子と命名した。第2因子は7項目で構成されており，「交換留学や学位留学に繋がりたい」，「将来の進路や方向性を探りたい」，「自己理解に役立てたい」など将来を見据える内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「将来の展望」と命名した。第3因子は9項目で構成されており，「世界への理解を深めたい」，「視野や見聞を広めたい」，「世界を見る目を養いたい」，「異文化体験をしたい」などオンラインを通して世界を見ることを期待する内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで「広い視野の獲得」因子と命名した。これら因子分析の結果から，学生がオンライン留学に期待しているのは経験を就職活動で役立てること，経験をを通して得られる自己の成長，そしてオンラインを通しての異文化理解と幅広い視野の獲得であることが判明した。

次に，上記にて算出した「就職と成長」得点，「将来の展望」得点，「広い視野の獲得」得点との総合相関を表3に示す。「就職と成長」と「将来の展望」が($r=.64, p=.01$)，「就職と成長」と「広い視野の獲得」

表2 因子分析結果

項目内容	1	2	3
21. 就職やキャリア形成に役立てたい	.862		
17. 就職に役立つスキルを身につけたい	.784		
26. 大学生ならではの体験をしてみたい	.749		
31. 大学生の今しかできない経験をしてみたい	.743		
24. 就職活動の自己PRにしたい	.695		
25. 自立したい	.674		
20. 自分の目で現地の様子を見てみたい	.657		
10. 実家を離れて暮らしてみたい	.655		
27. 現地の生活や文化に触れたい	.620		
6. 自分の力を試してみたい	.555		
9. 学生生活に役立てたい	.496		
3. 自分の語学力を確かめたい	.479		

13. 友達作りに役立てたい	.460		
33. 交換留学や学位留学につなげたい		.858	
22. 人間として成長したい		.772	
11. 自分に自信をつけたい		.717	
30. 将来の進路や方向性を探りたい		.695	
32. 現地の学生と交流がしたい		.687	
28. 海外への憧れ		.684	
15. 自己理解に役立てたい		.662	
14. 世界への理解を深めたい			.938
16. 視野や見聞を広めたい			.895
5. 様々な背景を持つ人々と交流してみたい			.756
2. 世界を見る目を養いたい			.652
23. 渡航先への興味関心（文化歴史、スポーツ、芸能など）			.623
18. 語学学習のきっかけやモチベーションに繋げたい			.556
8. 異文化体験をしたい			.521
1. 異なる学部や研究科の学生と交流したい			.478
19. 学んだ語学を実際に使ってみたい			.458
因子寄与	7.69	6.01	5.71
寄与率	23.00	18.20	17.30
			58.50

表3 相関関係と平均, SD, α 係数

	就職と成長	将来の展望	広い視野の獲得	平均	SD	α
就職と成長	—	.647**	.631**	4.15	.75	.93
将来の展望		—	.438*	4.41	.69	.88
広い視野の獲得			—	4.59	.50	.89

* $p < .05$, ** $p < .01$

が ($r=.63, p=.01$) 「将来の展望」と「広い視野の獲得」が ($r=.43, p=.05$) とそれぞれが有意な正の相関を示した。3因子のクロンバック α 係数は「就職と成長」が .95, 「将来の展望」が .88, 「広い視野の獲得」が .89 と内的整合性があり、十分な値を得ることができた。

2.3 渡航留学とオンライン留学の比較分析

次に、実際に渡航をする学生とオンライン留学をする学生では研修に参加する理由が異なるのか調べるため、同じアンケートを使用して2019年に渡航した学生を対象に実施した事前質問の回答と今回の回答を比較した。なお、渡航した学生を対象とした調査ではアメリカ、オーストラリア、カナダ、ドイツ、スコットラ

ンド、フランス、そして韓国が渡航先で、学生125名の学生から回答を得た。研修は今回同様、学部生が主な対象で、各研修とも2週間から4週間の間で実施され、学部生を対象に語学研修、文化交流、授業聴講などで構成されており、今回の研修内容との差はオンライン・渡航のみで、それ以外の差はない。まず、オンライン学生が回答したアンケート33項目から平均値が高かった10項目を表4に示す。学生が特に研修で期待していることは、語学力向上と実際に語学を使用することであった。次に期待値が高いのが、研修に参加する学生は本学、そして日本の学生だけではなく、主催校が持つ世界各国の協定校からも多く学生が参加することもあり、世界の学生との交流、異文化体験、異文

化理解の項目であった。すべての研修では現地の学生との交流が設定されており、語学の会話パートナーだけでなく、スポーツ観戦、料理、文化紹介、文化体験などの実際に渡航した時と同様の課外活動が多く設けられておりこれらを期待していることもわかった。次に、渡航をした学生の平均値が高かった10項目を表5に示す。オンライン留学で語学力に関する項目が上位1, 2と続いたのに対し、渡航留学では異文化体験、現地の生活に触れること、広い視野の獲得に関する項目が上位を占め、語学力向上に関する項目は入っておらず、興味深い差が出る結果であった。その理由として、渡航して現地で言語を使用することは当然のことのため、それ以外の項目を選択したと推測する。一方で、10項目の中で4項目、「視野や見聞を広めたい」、「異文化体験をしたい」、「世界への理解を深めたい」、「世界を見る目を養いたい」これらは渡航・オンラインの共通項目であり、異文化体験を通して世界への理解を深める目的は参加学生で共通していることがわかった。

表4 〈オンライン留学〉 記述統計

	平均値	SD
7. 語学力向上につなげたい	4.95	.21
19. 学んだ語学を実際に使ってみたい	4.86	.35
5. 様々な背景を持つ人々と交流してみたい	4.82	.50
16. 視野や見聞を広めたい	4.82	.50
32. 現地の学生と交流がしたい	4.77	.69
8. 異文化体験をしたい	4.73	.55
14. 世界への理解を深めたい	4.73	.70
28. 海外への憧れ	4.68	.65
2. 世界を見る目を養いたい	4.64	.79
11. 自分に自信をつけたい	4.64	.58

表5 〈渡航留学〉 記述統計

	平均値	SD
8. 異文化体験をしたい	4.77	.69
27. 現地の生活や文化に触れたい	4.73	.60
16. 視野や見聞を広めたい	4.71	.73
2. 世界を見る目を養いたい	4.66	.77
20. 自分の目で現地の様子を見てみたい	4.65	.77
14. 世界への理解を深めたい	4.63	.71
31. 大学生の今しかできない経験してみたい	4.60	.83

22. 人間として成長したい	4.58	.80
5. 様々な背景を持つ人々と交流してみたい	4.54	.79
26. 大学生ならではの体験してみたい	4.51	.82

2.4 プログラム修了後アンケート結果および考察

オンライン留学プログラム修了後のアンケートは、すべて自由記述で回答する形をとった。質問は1) 応募のきっかけ、2) 研修前に準備したこと、3) 参加したアクティビティや学生交流、4) 履修環境(オンライン環境、時差と健康管理、準備して良かったもの)、5) 研修を終えて感じること、の5項目から構成した。以下、それぞれ学生の記述を抜粋したものを紹介する。

1) 応募のきっかけ

- 新型コロナウイルスのパンデミックの状況の中、外国で学ぶ新しい選択肢として出てきたオンライン留学というものを体験してみたかった
- 英語を実際に使う場面がなく、自分の英語力を維持・向上させるためにはこのような留学機会を得る必要があると思い、応募した
- 1年間の交換留学に向けて英語力を維持、向上したいからであった
- 将来の留学を見据えて、海外大学のプログラムに参加して雰囲気を感じること、授業への参加を通して英語力を向上させることを目的にした
- 私は、大学在学中に対面留学に行くことを想定して、自分の英語スキルを向上させることを目的としてこのプログラムに参加した
- 大学生になったら留学をしたいと考えており、そのために英語のスピーキング力をつけたいと思ったことがきっかけ。また長い夏休みに何か興味のあることに挑戦したいと思ったこともきっかけの一つ

参加した多くの学生が、将来の長期留学を希望しており、その準備の手段としてオンライン留学を活用したことがわかる。

2) 研修前に準備したこと

- 毎日英語のニュースや大学から送られてくる記事の音読をした。毎回必ず知らない単語が複数あるのでそれらを調べ、語彙を増やす努力をした

- オンラインでもスムーズに英語での交流ができるように、基本的な英文法を押さえ直したり、大学が提供しているアクティビティに事前に参加したりした
- 研修前は、オンライン英会話を自主的に始め、英会話を生活の中に取り込むよう努力した。図書館や海外留学室でIELTSのテキストを借りて準備した。また、アクティビティの話す話題になるような自己紹介や日本文化の紹介などを英語でできるように練習した

i 留学に参加した学生全員を対象に事前授業を実施し、その際に準備をするように指導はしたが、ほとんどの学生が自主的にニュース番組を英語で見たり、英語の勉強をしたりと参加前に準備をしっかりと取り組んでいたことがわかった。

3) 参加したアクティビティや学生交流

- オーストラリアの文化や歴史、英語の発音、オーストラリアの音楽に関するワークショップに参加した
- Online Conversation Partner Program や Visitor Session という日本語を学んでいる学生と交流するプログラムに参加した
- ワークショップにはほとんど参加した。発音ワークショップでは、強調する箇所やどんなリズムでの発音になるのかを学び、歌詞から意味を読み取るワークショップでは、あるフレーズについて、時代背景などを絡めた意味など知ることができた
- Global Village という AIESEC のイベントで、日本ブースの運営を手伝った。自分の英語がきちんと通じ、私の話に対して他の学生がチャットで盛り上がりしてくれるのが嬉しかった

オンライン留学では現地に行かないためアクティビティや現地学生、参加学生との交流がないと思われるが、今回提供したプログラムはすべて、授業後にアクティビティが設けられていた。中でも日本を紹介する日本ブース運営に携わった学生が数名おり、日本に関する質問、大学のPRなどを行ったことが大きな自信に繋がったことが伺える。また、スポーツ観戦やオンラインクッキングなどコロナ禍以前では想像できなかったアクティビティがオンラインで実施されていることもわかった。

4) 履修環境

- 可能であればパソコン一台よりは複数画面用意した方が他の受講生の反応も見ながら快適に受講できると思った
- 強く安定した Wi-Fi は必須で、パソコンの操作にある程度慣れていた方が良い
- ずっとパソコンに向かっているのは想像以上に疲れるため、授業やアクティビティ以外の時間は意識してパソコンから離れる必要がある
- 少しでも留学気分を味わうため、研修前に部屋の模様替えをしたが、おかげで留学に集中することができた
- 有線のマイク付きヘッドホンだととてもスムーズに授業ができると感じた。特に、マイクの影響で音が聞き取りづらい生徒が何人かおり、ペアワークが困難な場面があった
- 話し合いの際に声が聞き取りにくい状態だと話し合いに支障が出てしまうため、静かな環境としっかり機能するイヤホンやヘッドホンを準備することは気をつけていた

オンライン留学ではインターネット環境を整えておくことが一番の課題である。それに加え、感度のよいヘッドホンなども必要であることが学生のコメントからわかった。パソコンに向かい続けているために起こる疲労度もあるようで、気分転換などを進める学生も多いた。

5) 研修を終えて感じること

- 研修を終えて、非常に貴重な経験をすることができたと感じている。日本にいて英語で話す機会が無いので、英語を聞いて話すという今回の研修は、今後の自分にプラスになると思う。同じ授業を受けている日本の学生でも、ネイティブのように自然に話す人も多く、自分の目標が明確な形になったように感じる。交換留学を考えているので、そのモチベーションにもつながっている
- オンライン留学は授業を自宅で受けることができるため、今まで海外に行ったことがない人でも慣れない食べ物などで体調を崩す心配がないことや外国への渡航費が必要ないことから、私のように今まで海外に行ったことがない人でも参加しやすい留学だったと感じる。また、授業の形式が生徒側から積極的

に発言・参加できるように工夫されているため、オンラインでもただ話を聞くのではなく授業に参加しているという感覚を味わうことができる

- 最初は不安やためらいであまり積極的に発言できなかったけど、カタコトでも話してみることで相手が理解しようとしてくれたり質問してくれたりなど雰囲気がとても温かく、もっと話したいと思うようになった。また自信を持って積極的に参加することで楽しんで活動でき、自信にもつながると思い聞き手の重要さも実感した
- 渡航を伴う留学を考えていたため、i留学でスキルアップができるのか疑問に感じている部分があった。しかし、実際に参加してみると、自身の課題が浮き彫りになり、それに対してきちんと実践の場が設けられているため、スキルアップに繋がると実感できた。また、スキルアップだけではなく、自身のキャリアや異文化理解などについても触れる時間が多く、語学以外でも気づきや学びが多く得られた
- この研修を通して英語でコミュニケーションをする経験ができるだけでなく、英語を学ぶモチベーションをあげることができた。参加者の将来の夢や興味のあることを交流の中で知ることができ、自分の将来について考えるよい機会になった。日本の学校での授業とは違った環境で新たなことが学べると思う
- 研修を終えて思うことは、このプログラムを通じて、英語のスキルが向上しただけでなく、精神的にも成長できたなということ。研修前にはあまり英語を話す機会がなかったこともあり、自分のスピーキング能力に自信がなかったが、研修の中で、他のクラスメイトの方が積極的に英語で意見を伝えようとする姿勢に刺激を受けたり、クラスメイトから私に対するポジティブなフィードバックを得てどんどん自信をつけていったりと、何事も恐れずにチャレンジする精神を学ぶことができたと思う。3週間の研修だけでは、飛躍的な英語のスキルの向上は実現できなかったが、これからも語学学習を継続していくためのモチベーションが得られた
- オンラインだからこそその良さもあるのだと感じた。様々なグループでワークができる、資料の共有だけでなく、書き込みもできるので、意見共有が簡単など。一方、現地で、直接自身の肌で異文化を感じたいと強く思った
- 今回初めての留学経験がオンライン形式でよかった

と思う。その理由の一つは、研修全体でかかる費用が実際に渡航するときの費用が掛からないからである。さらに、実際に現地に行く形式だと日本人だけのコミュニティが形成されてしまいがちだが、オンラインだと活動に参加するかどうか自分の意思で決められるため、主体的に海外の人と交流できると思う

オンライン留学の是非が問われて久しいが、今回参加した学生で研修に関してマイナスのコメントをする学生はいなかった。むしろ、オンライン留学の利点を見いだす学生が多く、実施して良かったと強く感じる。オンライン留学が定着して1年が経過し、運営側も学生のニーズに合ったプログラムを提供できているという点も大きい。

3. まとめ

コロナ禍ではじまったオンライン留学に関して賛否両論あるものの、今回実施した調査ではオンライン留学は渡航できない学生にとって有効な学びの手段の1つであると結論付けることができた。コロナ禍直後にオンライン留学について実施した調査（岩城・巽, 2021）では渡航を伴わない留学に積極的に参加したいという意見は少なかった。しかし今回実際にオンライン留学に参加した学生への調査結果では肯定的な意見が9割以上を占めた。学生がオンライン留学参加に踏み切った理由として、新型コロナウイルス収束後を見据えた長期留学のステップとして位置付けた、最初の国際交流として渡航を伴わない留学はハードルが低い¹ため参加できた、などの意見があがっていた。事前準備として与えられた課題以外にも現地の情報収集や英文法の見直しをするなど自ら積極的に学び、プログラム開始以前からそれぞれ工夫して学習に取り組んだ学生が多かったこともわかった。さらに、研修後も現地学生や他に参加した学生と交流を継続させていたり、勉強に積極的に取り組むようになったりなど良いインパクトを与えていることも伺える。また、オンライン留学に参加する上で必要不可欠な履修環境を整えることに関する意見は主催者にも参考になり、今後のオンライン留学実施の際に事前情報として学生に伝えられることが多く大変勉強になった。海外渡航は少しずつ再開しているが、新型コロナウイルスの完全な収束が

見えない中で当面は、留学プログラムは渡航とオンラインのハイブリッド型で継続していくと考えられる。先に述べたように、オンライン留学については未だ賛否があり、渡航しなければ本当の留学とは言えないという議論も続いている中で、本調査のオンライン留学に関する肯定的な結果はポストコロナ期を見据えたこれからのオンライン留学の在り方に一石を投じる結果である。研修内容の質、学生への準備や指導を充実させ、継続して学生への学びの提供を続け渡航出来る日に向け準備する環境を整えていきたい。

参考文献

Hess, Abigail, 2020, "More than 93% of U.S. college students say tuition should be lowered if classes are online" ([https://](https://www.cnb.com/2020/07/27/93percent-of-college-students-say-tuition-should-be-cut-for-online-classes.html)

www.cnb.com/2020/07/27/93percent-of-college-students-say-tuition-should-be-cut-for-online-classes.html, 2021.10.1)

岩城奈巳・巽洋子 (2021) 「COVID-19による学生の留学に対する意識変化—大学生への調査を通して—」『名古屋高等教育研究』第21号, pp 187-206.

岩城奈巳(2020) 「学生が留学を決定する要因についての一考察」『名古屋高等教育研究』第20号, pp 395-406.

文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」海外留学に関する意識調査 (<https://tobitate.mext.go.jp/news/detail.html?id=153>, 2021.9.24)

新居純子・岡田昭人 (2017) 「短期海外留学プログラムの評価と長期留学希望の関連性—東京外国語大学のショートビジットを事例として—」<https://core.ac.uk/download/pdf/222959356.pdf> (2021.10.30)

仁科恭徳・表谷純子・森下三和 (2017) 「短期留学が日本人学生にもたらす影響の実態調査」『教職教育センタージャーナル』第3号, pp 1-15.